



## 『水城 (みずき)』

2006年12月、博多出張の際に少し足をのびして太宰府の北にある水城(大野城市)を見てきました。水城は、博多湾方面からの攻撃に大宰府を守るための防御線です。直線の土塁と堀で、高さ10m以上、幅80m、長さ1.2km、665年に築られました。その博多湾側にあった堀は、幅60m、深さ4mで水を貯え、土塁の2ヶ所の開口部近くに門があり、東門の礎石が今も残っています。土塁の内部には、御笠川から堀に水を流すための木樋(もくひ)が通り、単なる城壁ではなく「いざという時に御笠川をせき止めて、外側の空堀に敵兵が入ってきた所へ急激にせき止めておいた水を放流して、一気に押し流すものであった」と言われています。

白村江(はくすきのえ)の戦いに破れた中大兄皇子(なかのおおえのおうじ=後の天智天皇)は、唐・新羅連合軍に攻撃されるとの恐怖心を持ち、国防に励み百済からの亡命者の協力を得て、朝鮮式山城を九州から瀬戸内に建設します。九州に水城・大野城・基肄城・金田城を設け、瀬戸内海から大和まで、山城を設けました。長門城・屋嶋城・鬼ノ城・高安城・三尾城などです。都を難波から琵琶湖沿岸の大津に遷し富国強兵を進めるべく、古代のコンビナートを建設し製鉄を進め武器製造に努力しました。

我が国の大きな転換点となったのが、白村江の戦いでした。敗戦によって、守るべき国の境、国境意識が誕生しました。また、日本という国号が生まれたのも天智天皇の時代なのです。

私の持った疑問は、鉄の生産についてです。ごく最近まで『鉄ティ』という形で鉄素材を朝鮮半島に頼っていた国が、この戦いに武装した3万人もの兵を派遣しました。それらの鉄は、誰が・どこで作ったのでしょうか?? 短期間に大量に製鉄したことが大きな疑問です。

### 白村江(はくすきのえ=はくそんこう)の戦い(663年)

朝鮮半島では、新羅・高句麗・百済の3つの国がお互いにしのぎを削っていました。659年、新羅が高句麗と百済に20余りの城を奪われた事がきっかけで新羅は唐と同盟し高句麗・百済と戦いました。新羅に唐と組まれては挟み撃ちの形、百済は滅亡してしまいました。(660年)

百済から沢山の亡命者が渡来し、朝廷に百済再興への援助を求めました。当時、百済王子・豊璋(ほうしょう)は我が国にいました。議論の末、唐と新羅を敵にまわして戦う事を決意した朝廷は、齊明天皇自ら軍船に乗り攻撃の拠点となる九州へ出発しました。しかし、半年後に齊明天皇が亡くなり、中大兄皇子が皇太子の立場のまま、軍の指揮をとりまします。唐の水軍と戦うべく白村江へ突入しますが敗退。百済は完全に滅亡し、日本にとっても朝鮮半島との交易の扉が閉ざされる事になりました。

参考文献・参考ホームページ

国境の誕生 ブルース・バートン 2001年 NHKブックス

大野城市ホームページ

[http://www.city.onojo.fukuoka.jp/culture\\_rekisi\\_sitei\\_001](http://www.city.onojo.fukuoka.jp/culture_rekisi_sitei_001)

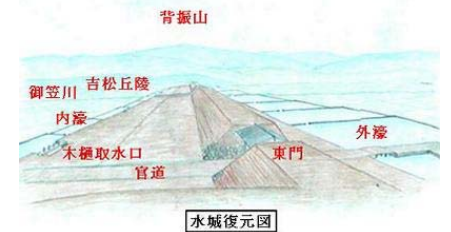
ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

今も残る  
水城の大堤



水城大堤之碑 東門の礎石



読みにくい漢字

大野城(おおのじょう)・基肄城(きいじょう)  
金田城(かねたのき)・長門城(ながとのき)  
屋嶋城(やしまのき)・鬼ノ城(きのじょう)  
高安城(たかやすのき)・三尾城(みおのき)

新羅(しらぎ)・高句麗(こうくり)  
百済(くだら)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!